



創立125周年

1885 - 2010

# 群像 創立者18人はこんな人



よく学びよく遊んだ初代幹事



し ぶ や ぞ う じ  
渋谷 慥 爾

1854(安政元)～1895(明治28) / 佐賀・鹿島  
 幼名、次太郎。のちに馬二から慥爾へと改名。幼い時から学問を好み、藩校弘文館で修業した後、1876年に上京、翌年大学予備門に入学。85年東京大学法学部を卒業し、代言人となる。英語に堪能で学問を好んだ渋谷は、時に、人のために余分の散財をする癖があったらしく、多額の借金を抱えていたともいう。面倒見の良かった岡山兼吉との縁で英吉利法律学校の創設に参画したといわれている。  
 著作には、羅馬法・英国刑法・帝国憲法代理法などの講義録のほか、イギリスのフォーセット夫妻の論考を翻訳した『政治談』上下巻などがある。  
 英吉利法律学校校では、初代幹事として校務全般を取り仕切る一方、組合法、羅馬法、判決例などの講義を担当。



志を英吉利法律学校に託して



い そ べ じ ゅ ん  
磯部 醇

1859(安政6)～1936(昭和11) / 岐阜・笠松  
 笠松で漢学を学ぶ。京都に出て英語、さらに名古屋の愛知英語学校で修業。東京商法講習所、大学予備門を経て83年東京大学法学部を卒業。翌年、代言免許取得。大学在学中に、以呂久を醇に改名。号は、裸坊。  
 東京専門学校で83年から85年まで教壇に立ち、岡山山と英吉利法律学校の創設に参画。間もなく長崎商業学校長として赴任したが、86年検事となって熊本に転じ、判事として各地を巡る。1910年、大審院判事を最後に退官、名古屋で弁護士開業。2年後、名古屋弁護士会長に選出。36年名古屋無尽会社社長に就任。英吉利法律学校では代理法を教える予定であったが、長崎に赴任したため教壇に立つことがなかった。

1894  
"明治27"

1894  
"明治27"